

日本の景気は賃金が決める

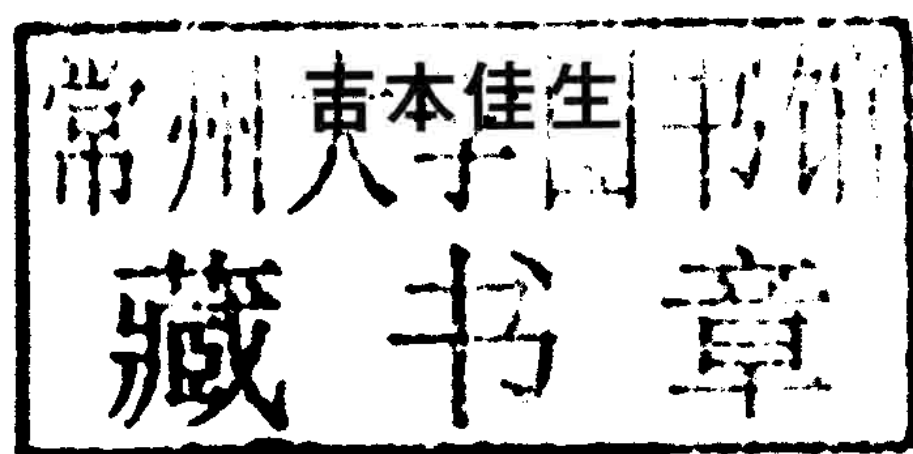
吉本佳生



講談社現代新書

2205

日本の景気は賃金が決める



講談社現代新書

2205

N.D.C. 330 302p 18cm
ISBN978-4-06-288205-7

講談社現代新書 2205

日本の景気は賃金が決める

二〇一三年四月二〇日第一刷発行

著者 吉本佳生 © Yoshio Yoshimoro 2013

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二 郵便番号 112-8001

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R] (日本複製権センター委託出版物)

複写を希望される場合は、日本複製権センター(電話〇三―三四〇一―二三八二)にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

序章 賃金格差を縮めれば、日本の景気は回復する

日本銀行の景気回復大作戦のカギは……／先進国中で最悪の賃金格差の下での賃金デフレ／賃金格差の拡大は、不況を深刻化させた原因のひとつ／低賃金グループの賃金を上げるかたちで賃金格差を縮めると……／金融緩和と公共事業拡大をいかに活用するか？／消費者物価、金融緩和、デフレなどを基本から確認しよう／生活者の視点から考える

第1章 日本経済の現状——過去六〇年で最悪でも、世界では優等生？——

金融市場は安倍政権誕生に期待した／“予想（期待）”が金融政策の効果を左右する／デフレ不況に転じたのは一九九八年から／景気のいい悪いを分けるハードル／物価下落＋経済成長率の鈍化Ⅱデフレ不況／GDPデフレーターも物価指数のひとつ／デフレが悪いと納得していない人も多い／デフレと不況を区別しないからわかりにくい／不況は失業の問題を深刻にするから、悪いことだ／失業率は上昇傾向から

第2章

日本銀行の罪——過去の金融緩和が賃金デフレを深刻にした——

下落傾向に転じた？／失業などの雇用問題は深刻化している？／就業者の女性比率上昇をどうみるか？／若者の失業率は相対的に高く、もっと上がるかもしれない／日本経済は過去六〇年間で最悪だが、世界ではまだ優等生／モノやサービスの需要不足は二％か、一〇％超か？／デフレより賃金デフレのほうが深刻！

73

第3章

金融政策のキホン——どのようにおこなうのか？——

アベノミクスとはまったく逆の結論／ポイントはバブルがどこで起きるかだ／資源価格が高騰すると、消費者物価は上がるのではなく、下がる？／原油などの資源が金融商品化したから、資源価格が高騰した／二〇〇四～〇八年の資源価格高騰は日本銀行にも責任がある／アメリカ国債の発行の増減も影響した／理由のひとつは輸入依存度の低さ、もうひとつは……／消費者物価は、個々の企業が値上げできないときには上がらない／値上げできずに賃金を下げたことで、デフレの悪循環が生じた

101

日本銀行の三つの役割／貨幣とは、いろいろな決済に使える資産のこと／金融政策

第4章

金融緩和と公共事業拡大——効果を高めるには？

は日本銀行の日常業務のなかでおこなわれる／一晩だけのおカネの貸し借りが大切／おカネの量を増やす方法／緩和と引締の区別は意外にむずかしい？／予想に働かせることが大切だが……／アメリカの過去の金融政策での経験／引締は得意でも、緩和は苦手？／日本銀行の「インフレ目標」は成功するか？

第5章

賃金デフレと賃金格差——賃金格差縮小なくして、景気回復なし——

年二％の消費者物価上昇は二〇〇八年に起きていた／コア指数かコアコア指数か、税込みか税抜きか？／円安と資源価格高騰だけで年二％インフレ目標達成？／金融緩和は物価でなく資産価格を上げる／海外のバブルは国内の賃金を高めない／いまの日本にとって、バブルは国内で起きるほうがいい／地方の公共事業を増やしたい気持ちにはわかるが……／インフレ目標政策は景気回復に成功するか？

不況は“貯蓄のパラドクス”で説明できる／民間消費を増やさないと経済は成長しない／いろいろとグループ分けをして、マクロ経済の分析をする／高所得者は不況

を深刻にするが、低所得者は不況を退治できる／所得格差の拡大が不況を深刻にした／デフレの悪循環がなくても、賃金デフレは続くかもしれない／賃金格差の拡大は高齢化だけでは説明できない／とりわけ正規・非正規の賃金格差が大きすぎる／非正規雇用比率の上昇が消費と生産の両方を縮めている／男女の賃金格差が大きすぎる／勤続年数による賃金格差が大きすぎる／企業規模による賃金格差が大きすぎる／“女・小・非・短”の賃金が上がれば景気は回復する

第6章

人を集めてサービス消費を増やせ——地価上昇を利用しよう——

サービス業中心で考えないとダメな理由／需給ギャップと成長戦略——白川総裁はやる気をなくしていた？／宿泊・飲食サービス業の賃金上がるようなら……／公共事業拡大も悪くない？／都市部の不動産価格が安定的に上昇すれば……／値上がりしそうな土地があれば、銀行はおカネを貸す／人口を都市部に集めることこそ、最高の成長戦略／実力が追いつけば、不動産バブルは崩壊しにくい／もっと地下鉄などの交通機関を整備しよう／高所得者にはもっと休暇に消費を楽しんでもらおう／学歴による賃金格差も大きな問題点／賃金格差の世襲／日本政府が少子化を加速させた？／やっていることをアピールしたいだけの政策の連発／子育て世帯にとつ

終章

生活ダメージを抑えてインフレ目標を達成する方法

では、インフレが続いていた？／物価上昇を上回る賃金上昇は、少子化対策としてどうしても必要／おしくらまんじゅう政策で日本を暖めよう

日本国債暴落によるハイパーインフレ不安？／被害を最小限に抑える裏技／青森と博多の実例から学ぶ／物価上昇による被害をもっと減らす方法

図表一覧

日本の景気は賃金が決める

吉本佳生

講談社現代新書

2205

目次

序 章 賃金格差を縮めれば、日本の景気は回復する

9

日本銀行の景気回復大作戦のカギは……／先進国中で最悪の賃金格差の下での賃金デフレ／賃金格差の拡大は、不況を深刻化させた原因のひとつ／低賃金グループの賃金を上げるかたちで賃金格差を縮めると……／金融緩和と公共事業拡大をいかに活用するか？／消費者物価、金融緩和、デフレなどを基本から確認しよう／生活者の視点から考える

第1章 日本経済の現状——過去六〇年で最悪でも、世界では優等生？——

27

金融市場は安倍政権誕生に期待した／“予想（期待）”が金融政策の効果を左右する／デフレ不況に転じたのは一九九八年から／景気のいい悪いを分けるハードル／物価下落＋経済成長率の鈍化Ⅱデフレ不況／GDPデフレーターも物価指数のひとつ／デフレが悪いと納得していない人も多い／デフレと不況を区別しないからわかりにくい／不況は失業の問題を深刻にするから、悪いことだ／失業率は上昇傾向から

第2章

日本銀行の罪——過去の金融緩和が賃金デフレを深刻にした——

下落傾向に転じた？／失業などの雇用問題は深刻化している？／就業者の女性比率上昇をどうみるか？／若者の失業率は相対的に高く、もっと上がるかもしれない／日本経済は過去六〇年間で最悪だが、世界ではまだ優等生／モノやサービスの需要不足は二％か、一〇％超か？／デフレより賃金デフレのほうが深刻！

第3章

金融政策のキホン——どのようにおこなうのか？——

アベノミクスとはまったく逆の結論／ポイントはバブルがどこで起きるかだ／資源価格が高騰すると、消費者物価は上がるのではなく、下がる？／原油などの資源が金融商品化したから、資源価格が高騰した／二〇〇四～〇八年の資源価格高騰は日本銀行にも責任がある／アメリカ国債の発行の増減も影響した／理由のひとつは輸入依存度の低さ、もうひとつは……／消費者物価は、個々の企業が値上げできないときには上がらない／値上げできずに賃金を下げたことで、デフレの悪循環が生じた

日本銀行の三つの役割／貨幣とは、いろいろな決済に使える資産のこと／金融政策

第4章

金融緩和と公共事業拡大——効果を高めるには？

は日本銀行の日常業務のなかでおこなわれる／一晩だけのおカネの貸し借りが大切／おカネの量を増やす方法／緩和と引締の区別は意外にむずかしい？／予想に働かせることが大切だが……／アメリカの過去の金融政策での経験／引締は得意でも、緩和は苦手？／日本銀行の「インフレ目標」は成功するか？

第5章

賃金デフレと賃金格差——賃金格差縮小なくして、景気回復なし——

年二％の消費者物価上昇は二〇〇八年に起きていた／コア指数かコアコア指数か、税込みか税抜きか？／円安と資源価格高騰だけで年二％インフレ目標達成？／金融緩和は物価でなく資産価格を上げる／海外のバブルは国内の賃金を高めない／いまの日本にとって、バブルは国内で起きるほうがいい／地方の公共事業を増やしたい気持ちにはわかるが……／インフレ目標政策は景気回復に成功するか？

不況は「貯蓄のパラドクス」で説明できる／民間消費を増やさないと経済は成長しない／いろいろとグループ分けをして、マクロ経済の分析をする／高所得者は不況

を深刻にするが、低所得者は不況を退治できる／所得格差の拡大が不況を深刻にした／デフレの悪循環がなくても、賃金デフレは続くかもしれない／賃金格差の拡大は高齢化だけでは説明できない／とりわけ正規・非正規の賃金格差が大きすぎる／非正規雇用比率の上昇が消費と生産の両方を縮めている／男女の賃金格差が大きすぎる／勤続年数による賃金格差が大きすぎる／企業規模による賃金格差が大きすぎる／“女・小・非・短”の賃金が上がれば景気は回復する

第6章

人を集めてサービス消費を増やせ——地価上昇を利用しよう——

サービス業中心で考えないとダメな理由／需給ギャップと成長戦略——白川総裁はやる気をなくしていた？／宿泊・飲食サービス業の賃金上がるようなら……／公共事業拡大も悪くない？／都市部の不動産価格が安定的に上昇すれば……／値上がりしそうな土地があれば、銀行はおカネを貸す／人口を都市部に集めることこそ、最高の成長戦略／実力が追いつけば、不動産バブルは崩壊しにくい／もっと地下鉄などの交通機関を整備しよう／高所得者にはもっと休暇に消費を楽しんでもらおう／学歴による賃金格差も大きな問題点／賃金格差の世襲／日本政府が少子化を加速させた？／やっていることをアピールしたいだけの政策の連発／子育て世帯にとつ

終章

生活ダメージを抑えてインフレ目標を達成する方法

では、インフレが続いていた？／物価上昇を上回る賃金上昇は、少子化対策としてどうしても必要／おしくらまんじゅう政策で日本を暖めよう

285

日本国債暴落によるハイパーインフレ不安？／被害を最小限に抑える裏技／青森と博多の実例から学ぶ／物価上昇による被害をもっと減らす方法

図表一覧

301

序 章 賃金格差を縮めれば、日本の景気は回復する